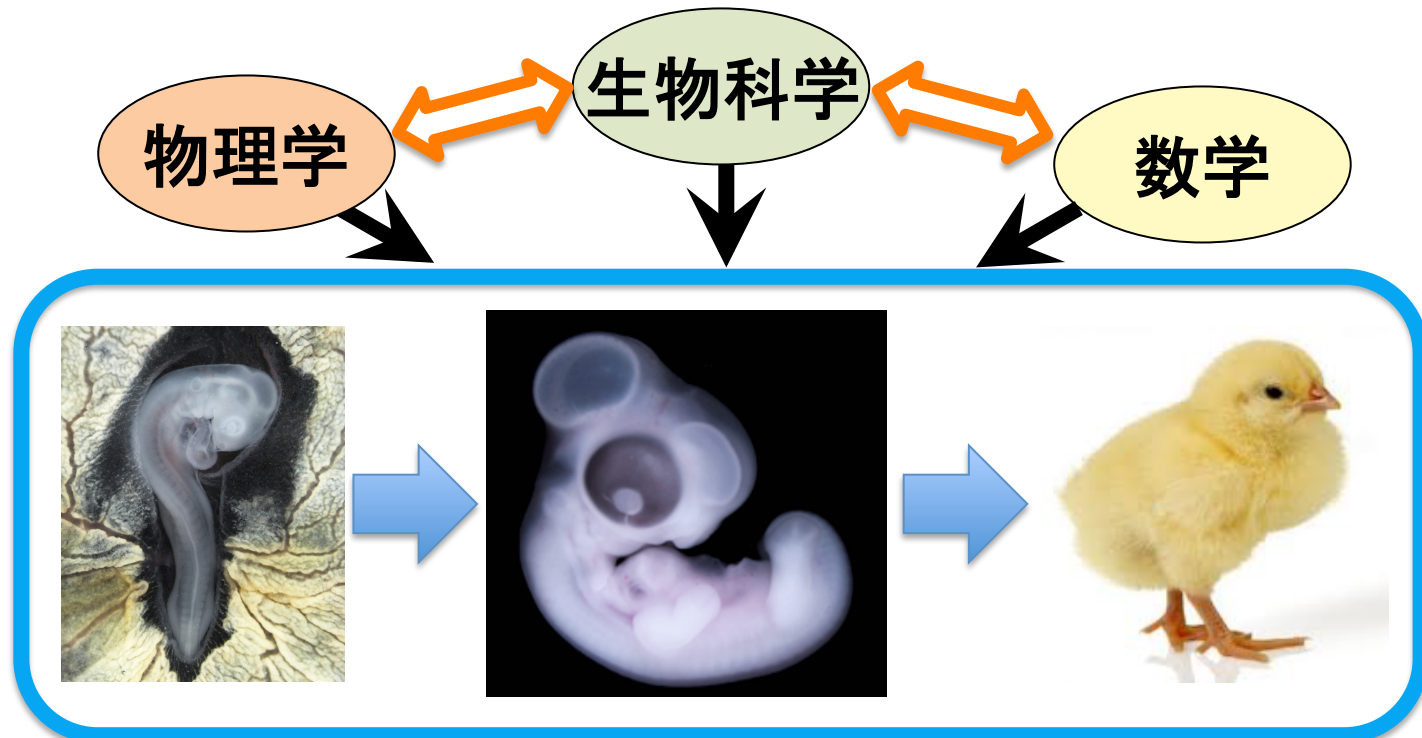


# 本物を見て考えよう！！ 脊椎動物の胚観察から数理の可能性を探る

[参加教員]

- 高瀬 悠太 (生物科学専攻 MACS特定助教)
- 荒木 武昭 (物理学・宇宙物理学専攻 准教授)
- 國府 寛司 (数学・数理解析専攻 教授)
- 高橋 淑子 (生物科学専攻 教授)



# 本スタディグループの目的

- 発生現象を説明できる新規数理モデルを考える
- 実物を介して分野間の交流を深める!!**



# 本スタディグループの実施内容

## 前期(5月～7月):

- 数理と発生現象との融合研究の実例を学ぶ
  - 論文の輪読(3～4回)
  - トリ胚の観察実習(1回)

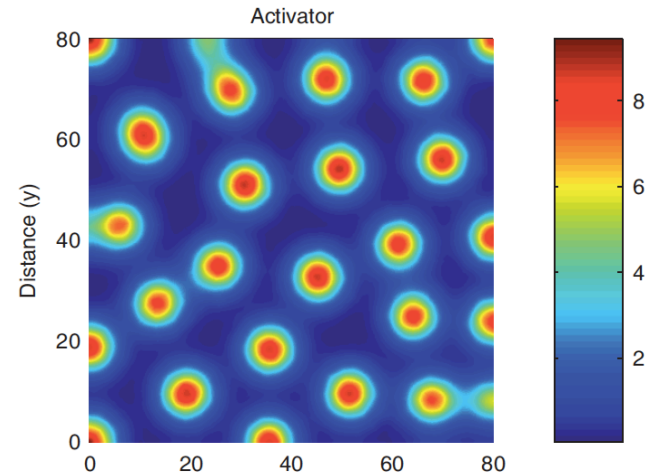
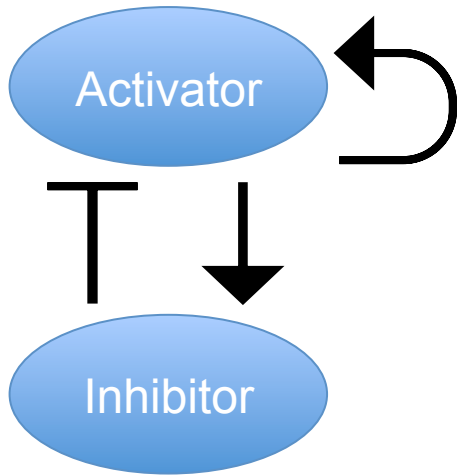
## 後期(10月～翌3月):

- トリ胚の観察実習および数理の可能性についての議論(6～7回)
- 数理と生物科学との融合研究の実例を学ぶ(必要に応じて)

※隔週に1回程度の頻度を考えていますが、実際のスケジュールは参加メンバー間で調整して決めます。

# 今回取り上げる融合研究の実例

## 「反応拡散モデル」による トリ胚の鳥肌(ブツブツ)の分布パターンの説明



(Baker RE. et al., *Int. J. Dev. Biol.*, 2009)

